

## 第58回日本小児保健協会学術集会 特別企画

東日本大震災フォーラム：被災地における子どもの成長発達を  
長期的に見守るために

## ホスピタル・クラウン 被災地に行く！

大 棟 耕 介 (NPO 法人日本ホスピタル・クラウン協会理事長)

東日本大震災に対し、NPO 法人日本ホスピタル・クラウン協会として、2011年4月の前半から、延べ43日、233名の派遣を行った。私自身も、7度の訪問をし、パフォーマンスをさせていただいた。

常日頃、道化師としてサーカスでパフォーマンスするだけでなく、定期的（全国50病院、多くの病院は月に2回）に小児病棟を廻り、子どもの笑顔を引き出してきた。クラウンは脇役として相手に接し、相手を主役にし、下から持ち上げてあげるパフォーマンスが特徴だ。この経験によって、避難所の中、段ボールで仕切られたスペースで生活する被災者の方たちに、優し

く丁寧にパフォーマンスすることができた。

押しつけのパフォーマンスでなく、「私たちが彼らを訪問するのではなく、彼らが私たちを招待する」アプローチをとり、接していくコミュニケーションは、安心感を持っていた。

そして、何度も同じ避難所を訪問することにより、彼らとの間に信頼が生まれた。

私の話の内容は、書面にするのが難しい。

音声・表情・身振り・パフォーマンスつきで皆さんに聞いていただきたい。

「またね。」

